

「きらり31」の最適な挿し穂の採取条件と、冷蔵保存による夏挿し作業適期の拡大

利用対象:「きらり31」の苗生産者

- 新品種「きらり 31」の市場への早期参入による産地ブランド化を目指すことを目的に、挿し木苗を安定的に大量供給するため、挿し穂の最適な採取条件を明らかにしました。

1. 挿し穂の採取位置

- 穂木が褐色に変わり始める位置を目安に、挿し穂を採取しましょう(図の a ~c の部分)。
- 発根部のカルス形成が少なく、発根量の多い苗が得られます。

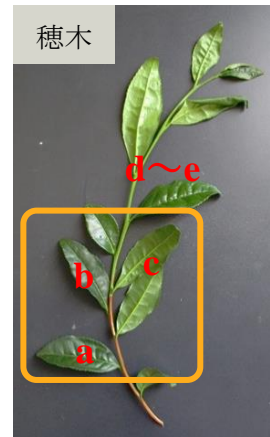
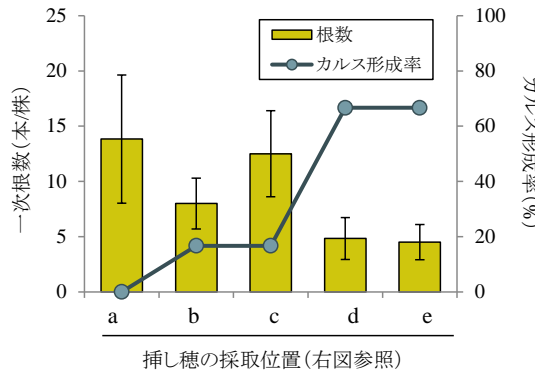


図1 挿し穂の採取部位が、挿し木2か月後の根の形成に及ぼす影響(2017年6月12日に挿し木。平均値±標準誤差)

2. 挿し穂の採取時期

- 挿し穂は6月10日前後に採取しましょう。苗の新梢長の生育が良好となります。

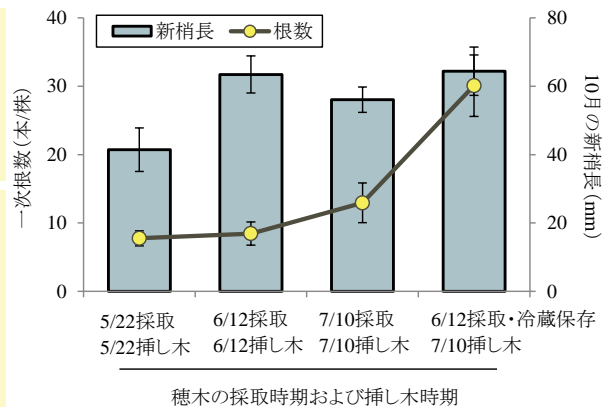


図2 挿し穂の採取時期および冷蔵保存が、挿し木2か月後の根の形成と、秋期の新梢長の生育に及ぼす影響 (2017年調査。冷蔵保存は穂木を採取後、4℃下で静置。平均値±標準誤差。)

3. 穂木の冷蔵保存による作業適期の拡大

- 6月10日前後に採取した穂木を、1か月間4℃で保存すると、7月上旬に二番茶期の繁忙期を避けた挿し木作業ができます。
- 本処理によって、根数が増加する効果が期待できます。

活用の留意点

- 本成果は定植9~11年目の母樹から採取した挿し穂を、1葉1節に調製して挿したセルトレイ苗における夏挿しでの結果です。
- 成果1、2(採取位置・採取時期)は密閉挿しによる地床苗(培土・山砂)にも適用できます。成果3(冷蔵保存後の穂木による7月の挿し木作業)は、地床苗では未確認です。

お問い合わせ先	茶業・花植木研究室 茶業研究課 田中千晴 中央農業改良普及センター 野村茂広	電話 0595-82-3125 電話 0598-42-6707
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm	